

## 17世紀オランダにおける振替銀行設立と イマジナリー・マネー

名古屋大学大学院生 橋本 理博

本報告の課題は、17世紀初頭のオランダで設立された振替銀行である「アムステルダム銀行」の歴史的意義を、「イマジナリー・マネー (imaginary money)」の観点から考察することである。

まず前提として、中世から近代初期のヨーロッパにおける貨幣制度が、「リアル・マネー (real money)」と「イマジナリー・マネー」との二層構造になっていたことを確認し、それぞれの特徴および関係について整理する。次いで、アムステルダム銀行設立以前のオランダにおける貨幣の状況を確認する。そこでは鑄貨の内在価値が減少し、名目価値が上昇する傾向にあり、鑄貨と計算貨幣との関係が乖離する状況にあったことを示す。そのうえで、こうした状況に対応するために設立されたアムステルダム銀行の制度的特質を、預金システムなどを中心に検討してゆく。

それらを通じて、アムステルダム銀行が銀行内で用いられる独自の計算貨幣を創出し、リアル・マネー（鑄貨）とイマジナリー・マネー（計算貨幣）の関係を「分離」させることで、貨幣価値の安定を実現する制度的土台を築いたということを明らかにしたいと考えている。